



第34回 愛媛形成外科研修会

抄録集

日 時 平成 26 年 11 月 29 日（土） 17 時 00 分～
場 所 愛媛県立中央病院 新館 3 F カンファレンス会議室
愛媛県松山市春日町 83 番地 TEL: 089-947-1111

当番世話人 愛媛県立中央病院
形成外科 小林 一夫

第 34 回 愛媛形成外科研修会

研修会について

1. 参加受付は 16 時 30 分より会場で行います。
お車でお越しの場合、駐車場がご利用可能です。無料のスタンプを用意しています。
2. 参加費として 2,000 円を申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 一般演題の討論時間は、一題あたり 3 分～5 分を予定しております。
5. PC は Windows7、Power Point 2010 を使用してのプレゼンテーションとなります。
当日は、USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。

連絡先

〒790-0024 愛媛県松山市春日町 83 番地
愛媛県立中央病院 形成外科 小林 一夫
E-mail: kobak@silver.plala.or.jp
TEL:089-947-1111(代)

会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	28名

会期	世話人	会場	日時	参加者
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	34名
第26回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成22年12月11日	30名
第27回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年6月18日	31名
第28回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年11月26日	25名
第29回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4階 末広	平成24年6月23日	34名
第30回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成24年12月1日	26名
第31回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成25年6月22日	36名
第32回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2階 楓の間	平成25年11月30日	30名
第33回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成26年6月21日	32名
第34回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成26年11月29日	

会 場 : 愛媛県立中央病院 新館3F カンファレンス会議室
愛媛県松山市春日町 83 番地 TEL:089-947-1111

当日は、時間外入り口(防災センター)から入り
守衛に 3F 会議室での会議に出ると伝え
エレベーターで 3 階にお上がり下さい

交通アクセス:

電車……伊予鉄道「松山市駅」より南へ約 800m(徒歩約 15 分)

バス……路線バス「市坪・はなみずき線」「都心循環東南線」にて「県病院前」下車すぐ



プ ロ グ ラ ム

Section I (17:00~17:20) 座長：愛媛大学医学部附属病院 形成外科 三宅 啓介 先生

1. pleomorphic lipoma の1例
松山赤十字病院 形成外科 庄野 佳孝 他
2. 陳旧性指神経損傷に対して神経再生誘導チューブを使用した1例
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他
3. 当院で行っている眼窩底骨折の実際
愛媛県立中央病院 形成外科 小林 一夫 他

Section II (17:20~17:55) 座長：静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕先生

4. 県立広島病院における乳房再建の現状
県立広島病院 形成外科 永松 将吾 他
5. Tissue Expander(TE)による乳房再建で術後神経性疼痛を来した2例の経験
静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕 他
6. 治療に苦慮している左腋窩から縦隔・咽頭に及ぶ嚢胞性リンパ管奇形の1例
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他
7. 子宮体がん術後の慢性リンパ浮腫を背景に発生した血管肉腫(Stewart-Treves 症候群)の一例
四国がんセンター 形成外科 服部 千春 他

教育講演 (18:00~19:15) 座長：四国がんセンター 形成外科 河村 進 先生

1. 当科で行っているリンパ管細静脈吻合術と周術期の複合的治療
四国がんセンター 形成外科 時吉 貴宏
2. 岡山大学におけるリンパ浮腫の集学的治療
岡山大学 形成再建外科 山田 潔
3. 「リンパ流の臓器特異性」を考慮した効率的な LVA
愛媛県立中央病院 形成外科・顎顔面外科 濱田 裕一

総 会 (19:15~19:30)

Section I (17:00~17:20) 座長：愛媛大学医学部附属病院 形成外科 三宅 啓介 先生

1. pleomorphic lipoma の1例

松山赤十字病院 形成外科

○庄野 佳孝、岡部 寛

(4分)

74才男性。2年前より左上腕に皮下腫瘍が出現し、徐々に増大してきた。初診時左上腕外側に11×9cmの弾性軟の皮下腫瘍を認め、下床との可動性は良好。MRIでは境界明瞭だが分葉状でいびつな脂肪性腫瘍を認め、T1強調では内部信号不均一で索状構造が目立ち、脂肪抑制でも高信号域が残存していた。脂肪肉腫や線維性脂肪腫、紡錘細胞性脂肪腫などが疑われたため生検を施行し、pleomorphic lipomaと診断された。若干の文献的考察を加え報告する。

2. 陳旧性指神経損傷に対して神経再生誘導チューブを使用した1例

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎、小林 一夫、中川 浩志、浜田 裕一、徳永 和代、尾崎 絵美

(4分)

症例は36歳男性。電ノコにより右母指切断、右第1～第3中手骨開放骨折受傷。

再接着および骨整復・神経縫合を施工したが母指は壊死し、皮膚欠損は陰圧閉鎖療法後に腹部皮弁で被覆した。その後は他院でリハビリを施行していたが示指・環指の知覚は回復せず、受傷7ヶ月後に当科で神経再生誘導チューブによる神経再建術を行った。

術後4ヶ月現在、徐々に知覚は回復し、経過良好である。

3. 当院で行っている眼窩底骨折の実際

愛媛県立中央病院 形成外科

○小林 一夫、中川 浩志、濱田 裕一、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎

(4 分)

眼窩底骨折の治療方法は、眼窩底へのアプローチ、眼窩底の精査、骨の整復・固定についてさまざまな報告がされてる。前回私たちは、眼窩縁の骨切りによる精査・整復・骨移植を報告してきた。今回は、2014年5月から導入した、顕微鏡下での眼窩底の精査と吸収プレートによる補強+骨移植の手術法を報告する。症例は26歳男性で、殴られて受傷。CT上、下直筋の陥頓が見られ、複視がある。

Section II (17:20~17:55) 座長： 静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕先生

4. 県立広島病院における乳房再建の現状

県立広島病院 形成外科

○永松 将吾¹⁾、望月 由¹⁾、松浦 一生²⁾、野間 翠²⁾、大原 正裕²⁾、板本 敏行²⁾、
横田 和典³⁾

¹⁾県立広島病院 形成外科 ²⁾県立広島病院 乳腺外科 ³⁾広島大学病院 形成外科
(4 分)

当院では 2013 年 4 月より形成外科専門医 1 名が赴任し、形成外科開設と同時に乳腺外科とチームを組み乳房再建手術に取り組んでいる。2014 年 10 月までの 1 年 7 ヶ月に行った乳房再建は 27 症例 28 手術であった。腹直筋皮弁、広背筋皮弁、保険認可となった組織拡張器、シリコン製人工乳房を症例に応じて使い分けている。当院の乳房再建の現状につき報告する。

5. Tissue Expander(TE)による乳房再建で術後神経性疼痛を来した 2 例の経験

静岡がんセンター 再建・形成外科

○中川 雅裕、五島 幹太、五来 克也、井上 啓太、三枝 紀子、北辻 まき、
丸山 陽子、嶋本 涼

(5 分)

TE 挿入による乳房再建後に強い疼痛を生じ、TE を抜去した 2 例を経験した。

症例 1. 39 歳女性。術後ドレーン抜去時より胸部に激しい痛みが出現、退院後も疼痛持続したため POD24 に TE 抜去した。

症例 2. 61 歳女性。術直後より激しい痛みあり。疼痛改善しないため POD35 に TE 抜去した。

2 例とも抜去時に肋間神経外側皮枝が縫合糸に巻き込まれているのを確認した。

TE 挿入時は肋間神経外側皮枝の走行に注意する必要がある。

6. 治療に苦慮している左腋窩から縦隔・咽頭に及ぶ嚢胞性リンパ管奇形の 1 例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹、中岡 啓喜、戸澤 麻美、三宅 啓介

(3 分)

6 カ月女児。出生前より左腋窩部腫瘍を疑われており、出生後 MRI および生検にてリンパ管奇形と診断した。現在までに 4 回の硬化療法を行ってきたが、頸部から咽頭の病変が気管を圧排して睡眠時の SpO₂ 低下を認めている。CPAP 装着により気道は確保されているが、今後治療方針について諸先生方のご意見を伺いたい。

7. 子宮体がん術後の慢性リンパ浮腫を背景に発生した血管肉腫 (Stewart-Treves 症候群) の一例

四国がんセンター 形成外科

○服部 千春、河村 進、時吉 貴宏

(3 分)

症例は、68 歳女性 10 年前に子宮体がんの手術を施行し、約 8 年前から下肢にリンパ浮腫を認めるようになった。病院を受診されていなかったが、リンパ浮腫が著明になり、動けなくなって当科を受診した。左大腿部に潰瘍を伴う腫瘤性病変を伴っており、皮膚生検を施行したところ、血管肉腫であった。慢性リンパ浮腫に伴う Stewart-Treves 症候群と診断した。

本疾患に関する文献的考察及び本症例に対して当科で行った加療を報告する

教育講演 (18:00~19:15) 座長：四国がんセンター 形成外科 河村 進 先生

1. 当科で行っているリンパ管細静脈吻合術と周術期の複合的治療

四国がんセンター 形成外科

○時吉 貴宏、河村 進、服部 千春

(20 分)

当科では平成 25 年 4 月よりリンパ管静脈吻合を再開した。再開に際しては当院が持つ人的資源を最大限に活用して患者の利益を最大化するようにと周術期に集中的な複合的治療(弾性包帯を用いた圧迫療法)を行う事とした。これら治療の詳細について報告する。

2. 岡山大学におけるリンパ浮腫の集学的治療

岡山大学 形成再建外科

○山田 潔¹⁾、松本 久美子¹⁾、杉山 成史¹⁾、木股 敬裕¹⁾、本田 雅子²⁾、三宅 麻希²⁾、三宅 一正³⁾、本多 文江³⁾、丸濱 恵³⁾

¹⁾岡山大学 形成再建外科 ²⁾岡山大学看護部 ³⁾光生病院リンパ浮腫治療センター

(20 分)

リンパ浮腫は生涯にわたりケアを継続してゆく必要があり、大切なことは患者さんの ADL や生活環境、家庭環境を把握したうえで「継続できる」最適な治療方法を適用することである。外科治療についても同様であり、近年症例が増えつつあるリンパ節移植術や脂肪吸引術は術後のケアが特殊で周術期管理や退院後のセルフケアが継続可能かどうかを十分に検討する必要がある。当院と関連病院でのリンパ浮腫集学的治療について述べる。

3. 「リンパ流の臓器特異性」を考慮した効率的な LVA

愛媛県立中央病院 形成外科・顎顔面外科

○濱田 裕一、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎

(20 分)

手術手技および機器の改良が行われ安定した過去 3 年間の LVA および遊離リンパ管複合軟部組織移植症例の約 400 件を対象としてリンパ管 ICG 蛍光造影所見を継時的に観察し、各部位で指向性と広がりを検討し LVA 施行部位と術後の改善度を検討した。上肢、下肢および男女共に下腹部・陰部の何れの部位でも「リンパ流の臓器特異性」を考慮した LVA は有用であった。効率的な結果を得るための一つの取り組みとして報告する。

愛媛形成外科研修会 総会(19:15～)

1. 次回研修会の日程
2. その他